



6月1日より高等部の前期産業現場等における実習が始まります。

## 実習の目的

産業現場等における実習は、実社会での経験を通して、働く力と社会性を育て、卒業後の自立した生活や就労につなげることが目的です。



本校の高等部では、生徒の将来の自立した生活や就労に向けて、「産業現場等における実習」を実施しています。この実習は、日々の学校生活（作業学習や各教科等での学習）で身に付けたことを基礎として、地域の職場等で実際に働く経験を積む学習です。実際の職場での体験を通して、あいさつや返事、報告・連絡・相談といったコミュニケーション力や、作業の進め方、時間やルールを守る態度など、社会で働くために必要な力を育てていきます。

また、実習を通して、生徒一人一人が自分に合って、得意なことや課題となることを知る機会となり、今後の進路を考える上での大切な参考となります。さらに、「できた」「やり遂げた」という経験を積み重ねることで、自信や働くことへの意欲を高めることにもつながります。

なお、この実習は、進路を決定するための場ではなく、生徒が学びや経験を積むための機会です。実習の結果のみで進路が決まるものではなく、学校での学習の様子や日常生活、ご家庭での様子なども含めて、総合的に進路について考えていきます。保護者の皆様におかれましては、お子様が安心して実習に臨み、より多くの学びを得られるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

## 実習の疑問

### よくある質問にお答えします！

Q: (実習先の事業所では) 送迎をしてもらえますか？

A: 送迎車のある事業所もありますが、実習中は利用契約をしていないので、生徒たちは送迎車を利用せずに、保護者送迎もしくは公共交通機関や自転車等を利用しての自力通勤となります。(送迎車利用時に事故等があった際に事業所の送迎自動車保険の対象となりません)。

Q: 実習中の昼食はどうなりますか？

A: 実習先で食事の提供がある場合は、実習先の給食等を食べることができます。食事料金は事業所によって異なります。実習最終日に現金での支払いをお願いしています(一部例外あり)。

Q: 実習中は放課後等デイサービスを利用してもいいですか？

A: 大丈夫です! 学校の授業の一環なので、放課後等デイサービスの利用は問題ありません。ただし、3年生で将来B型の事業所を利用しようと考えている場合は、卒業後の生活を具体的にイメージできるよう、放課後等デイサービスを利用せずに実習先からまっすぐ帰る経験もしておくことをオススメします。

Q: 実習の時間は何時から何時までですか？

A: 基本的に9:00~15:00程度を予定していますが、実習先によって若干早くなったり、遅くなったりすることがあります。また、木曜日も早い下校とならない日程での実習となります。放課後等デイサービス等の送迎をお願いしている場合は、あらかじめ事業所へ連絡をお願いします。また、集団実習は、8:30に登校し、毎日14:55下校となります。放課後等デイサービスを利用する場合には、時間の変更の連絡をお願いします。

Q:公共交通機関で通勤するときに、先生と一緒に乗ってくれますか？

A:通勤の練習は、ご家庭でお願いします。「一人で、安全に気をつけて通勤できる状態」を確認してください。必要に応じて実習初日に、通勤の状況を確認することもあります。一緒に通勤はしません(実習の巡回指導があり、一緒に通勤をすることは難しいです)。練習をしてみて、難しいと感じた場合は、学級担任へご連絡ください。通勤方法について、改めて確認をします。

## 実習中の生活

### ご協力、よろしくお願いします。

**生活リズムの管理:**実習中は、普段とは違うリズムで生活することになります。また、生徒たちは、緊張した中で、精一杯実習に取り組んでいます。帰宅後や週末はできるだけ体を休め、元気に実習に臨めるようにしましょう。学校では、夜9:00以降はスマホでのやり取りはせず、早く就寝するよう約束しています。

**実習日誌の記載:**生徒たちは、日々の実習を振り返り、実習日誌を記入しています。また、実習先の担当者にも、可能な範囲でのコメント記入をお願いします。実習中、気になることがありましたら、保護者の皆様から、日誌へのコメント記入もお願いできればと思います。

**持ち物の確認(言葉かけ):**実習中、時々、忘れ物をする生徒が見られます。初日のうち履きや作業服の忘れ物など、実習そのものに影響することもあります。忘れ物をしないように、本人への言葉かけをお願いします。また、実習最終日には、給食費(該当者のみ)の支払いを忘れずにお願いします。

実習明けの月曜日には、うち履きや実習日誌が必要となりますので、登校する際には、確認をお願いします。

#### 実習先への「心づけ」はご遠慮ください!

実習は、学校の学習の一環として取り組んでいますので、「心づけ」等のご遠慮ください。保護者の皆様からの、「今日も頑張っておいで!」「いい顔で帰ってきたね」のエールが、実は実習先へのエールにもなりますので、「心」だけで、十分です。

#### 失敗は成功のもと!

初めての活動、慣れない場所での活動で、生徒たちも必死で頑張っています。学校の学習活動なので、「失敗」はまさに「成功への架け橋」です。もし、実習中に何か失敗をしてしまっても、「次は失敗ないように気を付けてみよう!大丈夫!」と声をかけてあげてください。

## 卒業後の生活へ向けて

### 入所施設とグループホーム(共同生活援助)の違い

産業現場等における実習の際に、将来を見据えて、グループホームや入所施設での体験宿泊を行う生徒も増えてきました。大人になってから、急に環境が変わるのはとても大変です。在学中から、情報収集をし、体験を重ねていくことはとても大切です。時々、入所施設とグループホームはどこが違うのですか?という質問をいただきます。今回は、その違いについて、少し説明をいたします。

入所施設は、施設に入所し、日常生活を送る拠点となることです。食事や入浴、排せつ、健康管理など、生活全般の支援を受けることができます。施設には、夜間も含めて職員が配置され、継続的・安定的な支援を受けることができます。

一方、グループホームは、地域の中で、アパートや住宅で、少人数で暮らし、家庭に近い環境で地域の一人として生活できるという特徴があります。グループホームには、世話人や支援員が配置され、食事・掃除・金銭管理や健康管理などをサポートしてくれますが、入所施設に比べて、「自分でできることは自分で行う生活」が基本です。そのため、職場から帰ってから、部屋の掃除や洗濯は自分で行います。必要に応じて、世話人や支援員がサポートをしますが、「できることは自分で」を基本としているので、「(世話人が)やってあげる」というよりは「(本人が)自分でできるように支援」してくれます。そのため、グループホームでの生活を通して、将来的な一人暮らしや地域生活に向けて、生活力を身に付けるための場として活用されます。また、複数の人が一緒に生活をするため、その関係性を通して、協調性やコミュニケーション力の向上を図ることができます。

卒業生の中には、グループホームでの生活を経て、アパートでの一人暮らしに移行した方もいらっしゃいます。一人暮らしに向けて、自宅では、簡単な調理も練習したそうです。今では、レポートも増え、充実した毎日を過ごしているとのことでした。